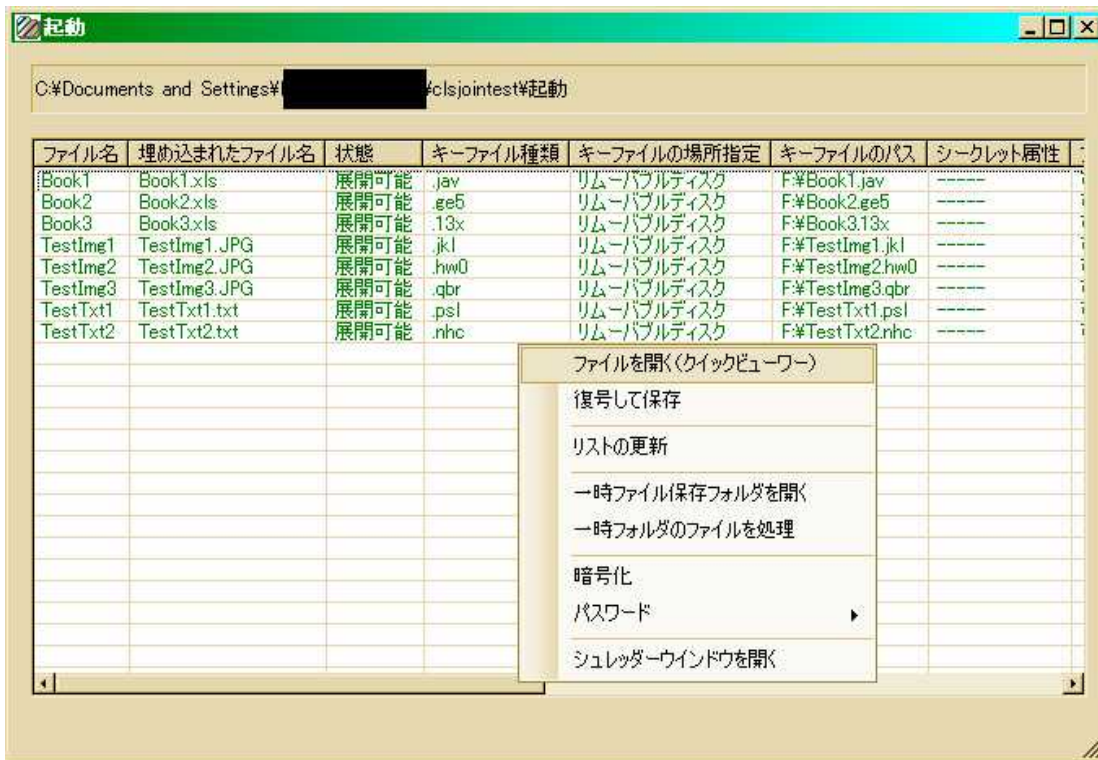


ClashSplit 取扱説明書

Version 0.1.1(Beta2)

メイン画面の説明とファイル展開操作



基本操作(ファイル展開)

暗号化されたファイルを展開する操作です。

の場所に現在処理中のフォルダが表示されています。
赤丸の部分をクリックすると作業フォルダを変更できます。

展開可能なファイルは緑で表示されます。
キーファイルの欠損で展開できない場合はオレンジで表示されます。
処理できない・またはパスワードロックされたファイルでパスワードが間違っている場合は灰色で表示されます。

右クリック パスワード パスワードを使用するでパスワードを入力することで
パスワードロックされたファイルが開けるようになります。

緑色のファイルを左ダブルクリックするとファイルを開きます。
この場合、ファイルを閉じた後に再暗号化される・又は電子シュレッダーで削除されます。

ファイルを復元して残す場合は、右クリック 復号して保存でファイルを保存できます。

その他

"一時ファイルの保存フォルダを開く" と "一時ファイルのファイル进行处理" は
展開中に何らかの原因で破棄されるべきファイルが残った場合の処理を行うコマンドです。

ファイルの表示・シュレッダー処理・再暗号化が行えます。

暗号化画面の説明と暗号化操作

暗号化メイン

メインウインドウで右クリック 暗号化をクリックすると下の画面が開きます

ここでは、ファイルの暗号化を行います。

下欄の暗号化情報に暗号化する際のステータスが表示されているので、変更する場合は詳細設定タブから変更します。

Spliflash 0.1.1 (Beta-2)

ファイル指定 | 詳細設定 |

暗号化するファイル。

ファイルの出力先(起動ファイル)

ファイルの出力先(キーファイル)

暗号化情報

【 キーファイル保存場所 】
キーファイルはリムーバブルドライブに置いてください。

【 暗号化後の処理 】
何もしません。

【 ファイルの変更 】
ファイルの書き換えが有効です。

【 シークレット属性 】
復号できない場合でも、ファイル名・キーの場所などの情報は閲覧できます。

【 破棄・再暗号化のタイミング 】
アプリケーションの終了後に処理を開始します。
※ 注意: MDIAアプリなどの場合は、親アプリが終了するまで処理しない事があります。

パスワード

☐ パスワードを使う

パスワード:

確認入力:

暗号化開始

暗号化したいファイルを指定します。
欄にファイルをドラッグドロップするか、欄をクリックして指定します。

暗号化後のファイルの保存先です。
未指定の場合は、元ファイルと同じ場所に指定されます。

キーファイルを出力する場所です。
未指定の場合は、設定でキーを検索する場所に保存されます。(書き込み可能な場合のみ)

パスワードの指定です。
指定しない場合は乱数がパスワードとして埋め込まれます。
メイン画面では パスワード指定されたファイルで パスワードが誤っている場合 使用できないファイルとして扱われます。

暗号化を開始します。
ファイルを暗号化し、出力します。
指定された出力先に2個のファイルが生成されます。
拡張子の無いファイルが起動ファイルです。起動ファイルはファイル名・拡張子共変更しても構いません。
拡張子のあるファイルがキーファイルです。ファイル名は変更しても構いませんが拡張子は変更してはいけません。

詳細設定

暗号化する際に埋め込まれる情報を設定します。

クイックビュー使用時の動作やキーファイルの場所などを指定します。



キーファイルの保存場所

起動ファイルを開いた時にキーファイルを探す場所です

指定した場所にキーファイルが無ければファイルを開くことができません。

リムーバブルディスク・・・USBメモリやSDカードなどの外部記憶媒体 持ち運んだり 書き換えが多い場合はこれ

CD・DVDドライブ・・・CDやDVD・書き換えしない場合・長期保管ファイル向け

ネットワークドライブ・・・主に他のPCにあるドライブ(設定必要) 他人のPCにキーファイルを置いておく場合に使用。

保存場所を指定・・・場所を指定します。

指定する場合下欄メニューから 保存方法を選択できます。

フルパス・・・パスそのまま マイドキュメント以下などの場合 他のPCでは開けない。

デスクトップを基準とした参照パス・・・デスクトップ以降のフォルダ構成のみ保存・他のPCでも以降の構成があていれば開けます。

マイドキュメント・・・上に同じ、マイドキュメント以降のフォルダ構成を保存します。

暗号化前のファイルの処理

暗号化終了後、元ファイルを処理を設定します。

暗号化前後のファイルが混同せぬように移動を選択するのがベターです。

終了後・即シュレッダー処理も可能ですが 自己責任でお願いします。

復元時の動作設定

クイックビュー使用時にファイルが更新された場合、再暗号化するかの設定です。

読み取り専用の場合は極力 書き換え不可能にした方が良いでしょう。

ステータス表示(シークレット属性)

ファイルの情報の表示・非表示を切り替えます。

表示の場合、キーを無くしても情報を元にキーを検索できます。

非表示の場合 全ての情報が表示されないのでもキーを探せませんが セキュリティには優れます。

尚、パスワードを使った場合はパスワードを入力しない限り”表示指定”でも情報は出ません。

使用不可ファイルとしてグレー表示されます。

プロセス終了まで待機する。

クイックビュー使用時にファイル処理するタイミングの調整用です。

この設定を誤ると ファイルが暗号化されずに残ったり ファイルを上書きしても 変更が反映されないことがあります。

ファイルを書き換える必要が無い場合はあまり関係ありません。

この設定はファイルの種類・開く時の動作によって切り替える必要があります。

テキストファイルなどの場合、ファイルが開いた後すぐに他のアプリがアクセス可能になるのでチェックが必要です。

逆にエクセルなどマルチドキュメントの場合、ファイルが開放されてもプロセスが終了しないことがあるので、チェックを外してください。

判断方法としては、同じファイルを2度開いた時に 開けてしまうものはチェックあり

開けない・又は警告が出るようなものはチェックを外すと良いでしょう。

使用上の注意など

暗号化前に必ずデータのバックアップを取ってください。

ファイルが破損しても作者は責任を取れません。

暗号化後は復元実験を行ってから元ファイルを消してください。

特に、書き換え不可能なCDなどの場合、暗号化時のチェックはHDDで行っているので セルフチェックがOKでも思ったような動作をしないこともありえます。

キーファイルの出力先とキーファイルの保存場所は極力同じにしてください。

こうすることでセルフチェックが実使用状態で行われます。

また、キーファイルをHDDに保存後USBメモリに移すとHDD内にデータが残ります。
ファイル復元ソフトで復元された場合、ファイルが開かれることもありえます。

ファイルは無くさないで下さい。

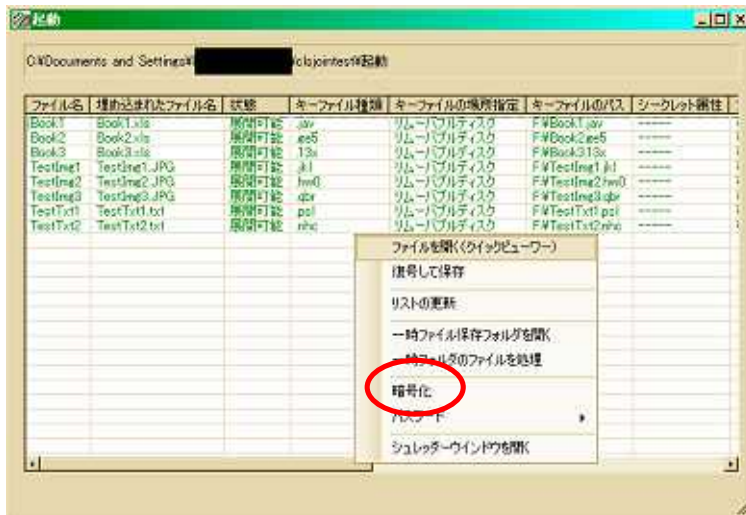
片方のファイルが無ければ 作者をもってしても復元できません。

使い方ガイド

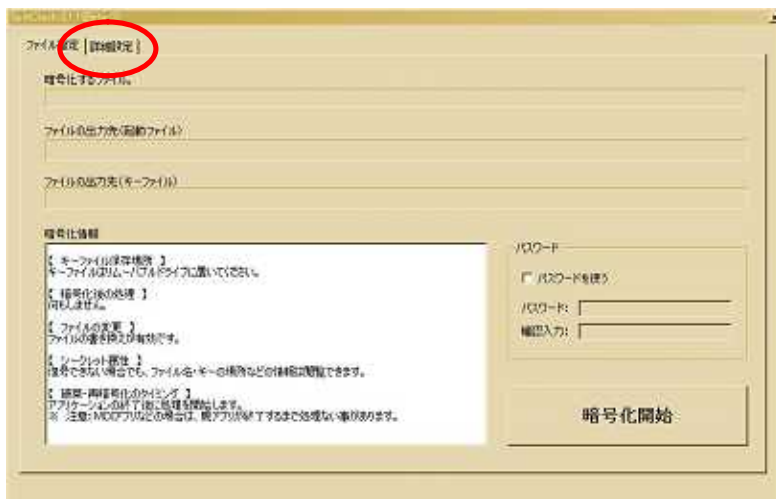
ここではエクセルファイルを暗号化し、USBメモリにキーを入れる場合のやり方を説明します。
エクセルファイルは書き換え可能とし、シークレット属性・パスワードは使用していません。

キーを保存する USBメモリを差し込みます。

メインウィンドウを右クリックしてメニューを表示し、暗号化を左クリックします。



詳細設定タブを左クリックします。



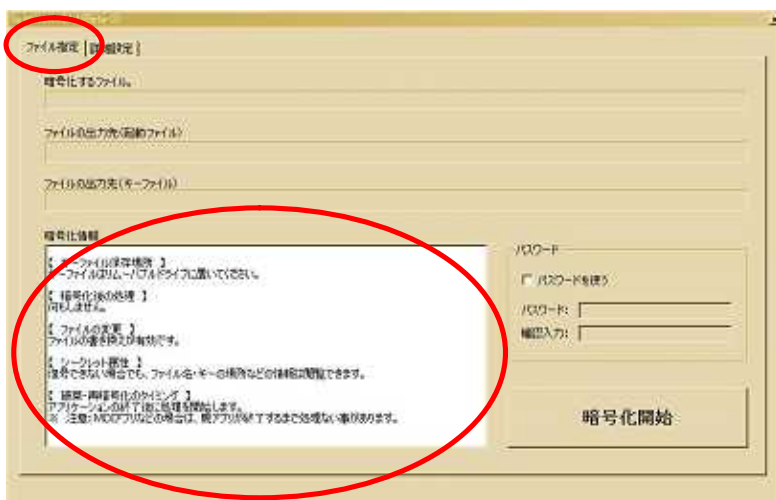
設定をします。



キーファイル保存場所・・・リムーバブルディスク
暗号化後の処理・・・何もしない
復元時の動作設定・・・書き換え可能とする。
ステータス表示(シークレット属性)・・・無効
削除・再暗号化のタイミング・・・**チェックを外す。**

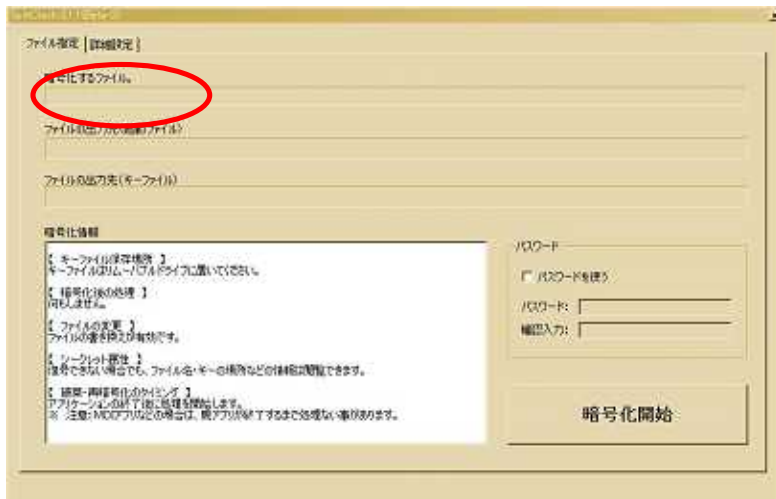
ほぼ標準設定ですが、エクセルはMDIアプリなので 削除・再暗号化のタイミングのチェックは外しておきます。

ファイル指定タブをクリックしてファイル指定画面に戻ります。



下の欄に設定項目が表示されているので確認しておいてください。

ファイルを指定します。赤丸の部分にファイルをドラッグドロップしてください。



ファイルの出力先は勝手に表示されるはずですが、キーファイルの出力先が差し込んであるUSBメモリであることを確認し、暗号化開始をクリックします。起動ファイルは元ファイルと同じ場所に生成されます。

右上の X でウィンドウを閉じます。

～ 以上で暗号化作業は終了です。確認の為ファイルを開いてみます。



赤丸をクリックし、 で生成された起動ファイルがあるフォルダを指定します。

ファイルが展開可能なら、ファイルが緑で表示されるので、ダブルクリックして開きます。正常に開けたらOKです。元ファイルを消す場合はなるべくシュレッダーで消してください。

このソフトでできること・特徴など

このソフトは、個人情報ファイルなどのファイルを分割・暗号化して守るものです。暗号化プログラムと違い、パスワードを必要とせず USBメモリが鍵の代わりとなります。(一応、パスワード設定もでき・USBメモリ以外も使えます。)

個人情報ファイルは暗号化されていることが望ましいのですが、時間と手間の都合上暗号化していない人がほとんどだと思います。

このソフトでは、暗号化・複合化の手間を省く為、ダブルクリックで開けるクイックビューワ機能を搭載し、ファイル終了時にタイムスタンプの書き換えを検知し勝手に再暗号化するようにする事で なるべくストレス無く使用できるように作ってあります。

このソフトは10Mb以下の単一のファイル(エクセルブックなど)をHDDとUSBで分割することを前提に設計されています。大きな動画などを処理しようとするとう大な時間がかかるのでお勧めしません(あまり大きなファイルは検証していません。)

暗号化の方法

このソフトでは、最初に設定するパスワード(未指定の場合はランダム)起動ファイル内に暗号化用・シャッフル用の2本
キーファイル内に暗号化用・シャッフル用の2本
合計5本のキーで暗号化されています。

起動ファイルの開錠キーはキーファイル内に
キーファイルの開錠キーは起動ファイル内に保存されています。

また、データ配列をばらばらにシャッフルしてから交互に分割してあるので
2個のデータが揃わない限り開錠できなくしてあります。

USBメモリとHDDに分割して管理することによるメリット

外部にPCを持ち運んだり、退社時する際に USBメモリをPCと別に保管したり持ち運ぶことで
PC・メモリのどちらかが紛失・盗難した場合にファイルが開かれるのを防ぎます。

ネットワーク経由でファイルが流出しても片方ならファイルを開くことはできません。

暗号化方式やパスワードがばれても、片側が無ければ開けません。

付属の電子シュレッダーについて

データに7度乱数を上書きし、リネームしてから削除しています。
ファイルを開いた際に生成される一時ファイルは全てシュレッダー処理されています。

その他のメディアの仕様

一応、USBメモリの使用が前提ですが、CDやフォルダの指定なども可能にしています。
ファイルの書き換えが必要ない場合は CDにキーを保存しても構わないと思います。

また、フォルダ指定することにより 特定のフォルダにキーがあるときのみ開錠できるように設定も可能です。

この場合、フォルダ名やフォルダ構成そのものが鍵となるので他のPCでファイルを開かれたくない場合に有効です。(この場合、シークレット属性をつけておいてください)

ネットワークドライブを使用すれば、他のPCをキーの保存場所として使用できます。
構内LAN接続時のみ開けるようにするといった使い方で使用します。

トラブルシューティング

ファイルが開けない

< ファイルの状態が"キーファイルなし"の場合 >

キーファイルの見つかりません。

キーファイルの場所指定欄で指定された場所に

キーファイルの種類欄の拡張子のファイルが存在することを確認してください。

< ファイルの状態が"処理できないファイル"の場合 >

指定したファイルが違う可能性があります。起動ファイルは 拡張子の無いファイルです。

キーファイルを指定しても起動はできません。

パスワードがかかっている。又はパスワードが違います。

パスワードを確認してください。

ファイルが上書きされない

ファイルの書き換え欄が可能になっているか確認してください。

キーファイル・又は起動ファイルが書き換え不可能なメディアにある場合は書き換えできません。

ファイルが読み取り専用属性になっている場合は書き換えできません。

終了処理を行うタイミングの設定ミス。

テキストドキュメント(.txt , .csv)などをメモ帳で開いた場合、アプリケーションの終了を待機しない設定だと ファイルを閉じた時には終了措置が完了しているので上書きされません。一度、復号して保存した後 設定を変更して再度暗号化してください。